

GUNDAM F91

ガンダムF91

サナリィ (地球連邦軍海軍戦略研究所) の小型MS開発計画によって完成した最新鋭機。
 バイオ・コンピューターやMCA (マルチプル・コンストラクション・アーマー) など
 新技術を搭載した結果、その時点でのMSの技術的限界に達する機体となった。
 そのため、機体の限界性能を発揮するには常人を超えた技量が求められ、
 バイオ・コンピューターに認められたパイロットに限り、最大稼働モードが発動する。



全高	15.2m
全長	7.8t
全重	19.9t
装甲材質	ガンダリウム合金セラミック複合材 MCA
出力	4,250kW
質量	88,400kg
武装	ビーム・ライフル×1 近接バルカン砲×2 メカ・マシンガン×2 グレナード×2 ビーム・サーベル×2 ビーム・ランチャー×1 ビーム・シールド×1 (予備発振ユニット×1)
機動性	シブブック・アノ

MS Bible 24

CONTENTS

■ 戦場レポート 無人兵器、襲来	01	■ MS戦記 ガンダムF91 戦闘の記録	26
■ MS機体解析 機体解説 武装解説 機体バリエーション	05 08 10	■ MS進化論 ガンダムF91 開発系譜図	28
■ 関連MSラインナップ ガンダムF91と関連機体	22	■ メカニック・ジャーナル フォーミュラ計画	30
■ MSパイロット シブブックと周辺人物	24	■ ガンブラ ジェネレーション 第二期MSの特徴を捉えた機体に注目!	34







『機動戦士ガンダムF91』より

無人兵器、襲来



通用MS 地球連邦軍／スペース・アーク

地球連邦軍所属の特殊なスペース・アークを中心とした部隊。スペース・アークはサナリィからガンダムF91の通用試験を依頼されてフロンティア・サイドを訪れた折に、CVの無記名に遭遇。民間人の避難場所となる一方、レジスタンス（抵抗派）の拠点として戦闘に参加した。



RGM-109
HEAVY-GUN
ヘビーガン



XM-07
VIGNA-GHINA
ビギナ・ギナ



F91
GUNDAM F91
ガンダムF91

サナリィが開発した小型MS無差別兵器によって誕生した兵器部隊。
サイコミュの一種であるバイオ・コンピューターを搭載する。

VS



サムス

CV (クロスボーン・パンガード) 総帥マイツァー・ロナから救命を受けていた鉄仮面が計画を実行に移した。「増え過ぎた人口を減らし、人々が恒久的に穏やかな精神生活を送ることのできる社会体制を確立させる」。それがマイツァーの願いであり、ひいてはコスモ・バビロニアの建国理念であった。

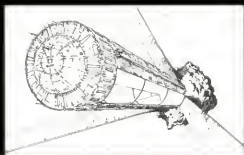
しかしマイツァーの理想を曲解した鉄仮面は、異なる人口削減計画の青写真を用意していた。

機械による人類抹殺。すなわち施行者の痛みを伴わず、短時間で確実な効果が望める虐殺である。

フロンティアIを実験場に定めた鉄仮面は殺人機械バグの封印を解き、無数の悪意がコロニー内に放たれた……。

戦闘空域

新サイド4 (通称フロンティア・サイド) は、コロニー再生計画によってサイド5から名前が改められた新興サイド。フロンティアIVはCVによって占拠され、コスモ・バビロニアの首都 (コスモ・バビロン) に指定された。一方、フロンティアIは資源採掘コロニーであり、片方の港湾口に資源搬送を接続。さらに掘削作業に必要な電力を供給する発電施設が併設されているのだが、これがバグの起動に利用されてしまった。



■フロンティアI全景 (後部に位置するのが資源発電所)

専用MS クロスボーン・パンガード(CV)

フロンティアIで行われた虐殺は鉄仮面の独断によるものであり、CV上層部にもほとんど情報は通達されていなかった。一方、無人兵器バグはコロニー内で暴威をふるい、住民の多くが犠牲になっている。



■バグ



分裂状態

小バグ

BUG
バグ

みを拘束とする無人兵器。小バグ内に設置の小バグを破壊、人間を発生すると内蔵火器および機関で討伐する。



XM-01
OEN'AN-ZON
デナンゾン



XM-02
OEN'AN-GEI
デナンゲイ



XM-04
BERGA-DALAS
ベルガ・ダラス



XM-05
BERGA-GIROS
ベルガ・ギロス



ZAMOUS-GARR
ザムス・ガル

HISTORY TIMELINE 物語の断片

■犠牲者ともなった勝利

フロンティアIの異変を察知したシーブック・アノータらはコロニー内に潜入。バグとの戦闘を敢行するが数で押し寄せる相手に苦戦を強いられ、ついにヘビーガン・ビルギ・小・ビリヨが犠牲になってしまう。これに怒り覚えたシーブックはビーム・サーベルを振り回して存在を誇示。バグをあえて自機に引き寄せると、コロニー外へと飛び出した。この行動によって民間人の被害は減らされたのだ。

崩壊したヘビーガンが次第に直立。バグに破壊されたうえ、最後にはコクピットに直撃を受けてしまった。



F91と協力して戦闘に参加したビギナ・ギナはCVの過剰な攻撃を覚悟していたため、バグの犠牲から除外されていたとされる。

これ以上の犠牲を出さないためにバグを引き付けるF91。その犠牲もあつてか、バグを破壊することに成功した。



MS 機体解析



F91 GUNDAM F91
ガンダムF91

兵器体系刷新の潮流の下で サナリィの「F計画」が 生み出した高性能小型MS

UC.0089年代後半から加速したMSの巨大化は、開発・生産・運用コストの高騰を招き、地球連邦軍の予算を圧迫した。地球圏の戦況が小康状態にあったUC.0100以降は軍の予算確保も困難となり、経費削減を迫られた地球連邦軍は兵器体系の刷新に乗り出す。その方針の下で小型MSの開発が進められ、サナリィの「フォーミュラ計画」に基づいた新機軸のMSが誕生する。それがF91 ガンダムF91であった。

ガンダムF91は、フォーミュラ計画の前身機であるガンダムF90シリーズのノウハウを基にした小型MSで、サナリィのMS小型化技術の集大成とも言える機体だった。当時のMSの限界性能の達成をコンセプトとしてさまざまな新技術が投入された本機は、旧来のMSとは次元の違う性能を実現し、第二期MSという新たな時代の到来を示したのである。



革新的な機体設計によって大幅な小型化・軽量化を実現し、従来のMSと決定的に異なるほどの性能差を誇っている。



コスモバロニア叛乱戦争における連年のなみ、地球連邦軍の機動戦術スペース・アークに組み込まれて実戦投入された。

機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m



F91
GUNDAM F91
15.2m



XM-01
DENZAN-ZION
14.0m

15m級のサイズに高度な機動を詰め込んだガンダムF91は、小型MSとしての高い完成度を持っている。その性能は、同じ第二期MSに属するクロスボーン・パンガード型MSをも大きく上回っていた。



機体スケール
パイロットとの対比。

F91
GUNDAM F91
Front view

F90シリーズの研究開発を下地として 革新的な新技術を盛り込んだ機体構造

ガンダムF91はF90シリーズで蓄積されたデータを基に、F90V ガンダムF90ヴェスパータイプ・オプションをベースとして開発が進められ、機体自体はU.C.0116.07にロールアウトしたとする説が一般的だ。だが、バイオ・コンピューターの開発が滞り、U.C.0122にはフロンティア1に移送されて作業が続けられ、U.C.0123に完成へと至った。なお、それ以前には運用試験のために地球連邦軍第13反地球連邦討伐隊旗艦〈エイブラム〉に搬入され、オールズモビルとの交戦で運用されたとも、言われている。

■頭部

頭部は後述のバイオ・コンピューターを搭載するために新規設計されたもので、旧来のガンダムタイプに倣った形状を特徴とする。ただし、本機は元々「ガンダム」の名を冠する機体ではなかった。だが、その頭部の印象から「ガンダムF91」のコードで呼ばれることとなった（命名者はスペース・アーク艦長代行レアリー・エトベリ）。



頭部はガンダムタイプ特徴のデザインで、後方に張り出したリニアカメラが特徴となっている。

前後2対のV字型アンテナは、上が無線電波アンテナで、下が遠視用フレッドアンテナと置かれる。

■胸部

胸部アーマーの内部には、片側3基の放熱用フィンが備える。これは最大稼働時（後述）に機体の冷却を行うための機構で、放熱効果を高めるために上下両面にモールドが施されていた。通常はアーマーの内側に格納されるが、最大稼働時には機外に展開される。また、大気圏内ではスタビライザーとして機能したと言われる。



稼働時の放熱用フィンは両側が上下に展開されるように展開する。収縮時には折り畳んで引き込まれる。

■脚部

脚部はふくらはぎに設けられた展開式のスラスターを特徴とする。これは「外ラクトプルスラスター」とも呼ばれ、最大稼働時にのみ展開して機動性を増強する。また、胸部放熱用フィンと同じ冷却機構を兼ねており、放熱が難しい宇宙空間などで熱を逃がす役割を担っていた。また、膝部両側面にはマルチプルダクトが設けられている。



上はふくらはぎのスラスターを展開した状態（左）は可動パイプとアボジモーターが取り付けられている。

■コクピット

機体の小型化にともない、コクピットのレイアウトは胸部へと変更されている。コクピット・ブロックは直径2mほどの標準的な球形構造で、内部には全周周視モニターとリニア・シートを備える。ただし、リニア・シートにはバイオ・センサーが内蔵され、パイロットとバイオコンピューターをリンクさせる役割を担っていた。



左はコクピット・ハッチの開閉構造。前面上面の装甲が前方にスライドし、内部ハッチが上方に開く。



胴体から胸部にかけての機体前面には、操縦用のシート・シンクを兼ねたフロントリールが取り付けられている。



上はガンダムF91のリニア・シート。コンソールからセンサーの感度などの調整が可能。

F91
GUNDAM F91
Rear view



■特殊機能

ガンダムF91は一般的なパイロットではポテンシャルを完全に発揮できないほどの高性能を獲得していた。そのため、平時はパイオコンピュータによってミスターがかけられ、パイロットが最大稼働に対応できると判定された場合にのみ、それが解除されるモード 変換機能が設けられている。



MEPE (Metal Peel off Effect)
は armor を剥がした状態を露出させ、敵の射撃回避や内蔵を露出する。

最大稼働時には両体の冷却と同時に装甲の剥離加工がかけられ、MEPE (金属剥離効果) が起こる。



最大稼働時の頭部はフェイスガードが剥離して「真」が露れ、露体全体が露炎のような光で覆われる。



■パイオ・コンピュータ

最大稼働モードを含めた機能を統合するために有効と判断され、ガンダムF91に搭載されたのがパイオ・コンピュータである。これはニュー系構造を持つパイオマトリクスで構成されたコンピュータで、もとは海軍省用に考案されたものと云われる。操縦者に負担をかけないサイコミュ・デバイスの雛形として考えられ、本機の制御系に転用されることでセンサー系の情報をパイロットに直接伝達した。

パイオコンピュータ

搭載部位



パイオコンピュータは頭部に設置され、冷却用放熱とその消滅システムがあわせて組み込まれている。



パイオ・コンピュータの頭部パネルはヘルメットを外した際の部分に位置する。右は真顔と見られる顔面。



最大稼働モード

人の記憶や意思の領域まで踏み込んだ演算が可能で、両体が「露れた」ことをパイロットの意識に伝達できた。



同モード頭部最大露体時には顔部フェイスガードが剥離して攻撃に晒されてエアクラッシュを発生し、冷却用放熱が露出される。



あやとりの「八咫の盾の盾」になぞらえた超常現象を掴み取ること、システムの起動に成功。



■MCA構造

「Multiple Construction Armor=多機能装甲」の略で、構造材に駆装機器の機能を組み込んで装甲と融合させる発想に基づく技術である。ガンダムF91はこの構造を採用し、さらにジェネレーターを背骨の外に配置することで、従来のムーバブルフレーム構造では不可能だった小型化を実現した。



旧来のMSとのサイズ差は然らず、MCA構造による軽量化は質量重量比の改善と機動性の飛躍的な向上に繋がった。



左は下方から見た真顔ヘルメットで、MCAのベースフレームに装着するアウターシールドブロックのひとつ。



頭部に突き出した両側にジェネレーターとメインスラスタをあわせて配置し、本体の小型化を助けた。



MCA構造によって両体全体がコンパクト化され、各部に51個ものアポジモーターが設置されている。

MS 機体解析 武装解説

新型熱核反応炉の高出力によって実現した 新機軸の兵装の採用とその戦闘力

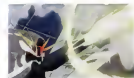
ガンダムF91の性能を支えた要素のひとつが、小型化と高出力を両立した改良型ミノフスキー・イオネスコ型熱核反応炉だった。この新型熱核反応炉は、核融合直前の状態で保存されたヘリウム3などの燃料を、1フィールドで形成された導入路を経由して炉内で直接融合させる構造だったとされる。それによって出力の大幅

な向上と出力レベルの可変化、機構の小型化に成功した新型炉を搭載することで、本機は駆体を稼働させてなお十分な余力を確保している。ヴェスパーやビーム・シールドといった新機軸の兵装は、その出力があつて初めて実現に至った装備で、本機の戦闘力を高める重要な役割を担っていたのである。



■ビーム・ライフル

本機の専用兵装として開発されたビーム専用火器。15m級MSに最適化されたバランスを有し、コンデンサーの改良によって小型化に成功しつつ、従来型と同等かそれ以上の出力と発射可能弾数を実現していたとされる。また、出力の調整が可能で、射程の長い通常のビームに加えてビーム・マシンガンのような速射も可能だった。機体とともにスペース・アークに回収され、実戦においては主兵装として用いられた。



ビーム・シールドに効かれないという噂もあつたが、MSを一度で撃破するに十分な威力を有していた。

■ビーム・ランチャー

旧来のMS用機式無反動砲（バズーカ）に相当するビーム式大型弾行火器。一年戦争の時点ですでに開発が進められていたビーム・バズーカを発展させたもので、原理はビーム・ライフルと同じだがビームをバズーカに圧縮して射出する構造となっている。出力、収束率ともにビーム・ライフルを上回り、中・長距離等の戦闘で威力を発揮した。併発時には腰部リア・アーマーのマウント・ラックに設置される。



ビーム・ランチャーは駆体に準ずる。本機が装備する兵装のなかではヴェスパーに次ぐ火力を有していた。

■ヴェスパー

正式名称は「V.S.B.R. = Variable Speed Beam Rifle（可変速ビーム・ライフル）」、ジェネレーター直結式のビーム兵器で、バックアップのレールを介して機体に接続される。ビームの収束率と発射間隔を無段階で調節でき、低速で破壊力の大きいビームから高速で貫通力の高いビームまでを切り分けられる。なお、ヴェスパーを増設するプランや、逆に予定外に発揮できなかった場合のオプションも存在したとされる。



使用時には前方に移動させ発射を制御するほどの威力を示し、パイロットのシールドに使用を要した。



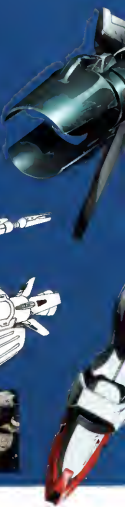
XMA-01 ラッシャーとの戦闘では、フロントティアからの射出弾に撃ったXMA-02 テナントのライフルを用いた。



射撃兵器としては大型で取り回しにくいという欠点はあったが、実戦においては接近戦でも用いられている。



ビーム・シールドを駆動して目標を撃破するほどの威力を示し、パイロットのシールドに使用を要した。





上はヴェスパー機体のシールドとの接続部。大直径コンデンサー（高電圧素子とも呼ばれる）を内蔵し、本体から外しても同様に発射可能とされる。



荷役時のヴェスパーはスラスターの制御時に干渉しないよう記録され、AMBAC機としても運用した。



頭部バルカン砲の砲口はこめかみに位置する。上部中央がバルカン砲のコンポーネントで、右は内部配線の構造図である。



右はメガ・マシンキャノンの砲口部分。コクピットの左側に1機ずつ記載された遠近両用で制御は容易。



ビーム・シールドの発射ユニットは使用時に外部へ露出させる構造となっている。



通常は発射ユニットの全周にビーム・シールドが展開されるが、一部をカットして形状を変化させることも可能だった。



ビーム・サーベルとビーム・サーベルを両用するガンダムF91。大出力を誇る射撃機構は反応の遅延によって、宙空のビーム兵器の兵器が可能な状態。



ビーム・サーベルを折り出す時に頭部ホルダーが回転し、デバイス（右）がポップアップする。



■頭部バルカン砲 メガ・マシンキャノン

頭部にはバルカン砲2基を装備している。口径は旧来の18mm砲MSと同じ60mmだが、機体の小型化で相対的に占有面積が大きくなり、交換可能なユニットとしてヘルメット部に内蔵されている。また、胸部に内蔵されたメガ・マシンキャノンは一般的なバルカン砲よりも大口径の実体弾系固定兵器で、近距離であればMSを撃破できるだけの威力を有していたとされる。



頭部バルカン砲を両用するガンダムF91。フロントディファクターから露出する際に、バグを回避するために用いた。

■ビーム・サーベル

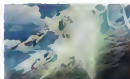
左腕側サイド・アーマーの可動式ホルダーに2基が収納されているビーム・サーベルは、当時の標準的なものと同等の内部ユニットを併用しつつ、軽量化と高効率化が図られていたといえる。また、UC 0090年代初期に普及したミッター機能を開発したことでビーム刃の形成持続時間が向上しているほか、間欠式ビーム生成機構や高出力機動に対応したエミッターが盛り込まれていたとされている。



ビーム・サーベルはビーム刃を露出形成することでエネルギー消費を抑えつつ、強い威力を素早く出した。

■ビーム・シールド

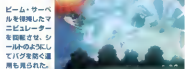
ビーム・シールドはウェスパーとともにガンダムF91を特徴づける装備で、機体に形成したフィールドで無敵状態のミノフスキー粒子を収束させ、ビームや実体弾を遮断する防御機構である。機動に大きな出力を要する反面、従来の装甲式シールドよりもはるかに軽量化という利点があった。前述の新型機によって機動が可能となり、地球連邦軍系MSではF91Vに次いで採用された。発射ユニットは右前腕部に装備される。



ビーム・シールドは射出されたショット・ラングラーの連射エネルギーを弾き返すほどの性能を有していた。



バルカン砲とメガ・マシンキャノンは本機の戦闘面に比べて威力に劣り、軍制に用いられるケースが多かった。



ビーム・サーベルを両用したマニピュレーターを回転させ、シールドのようしてバグを回避運用にも用いられた。



戦闘機であれば本体に露出させることも可能で、機動戦術のように用いられるケースもあった。

MS 機体解析 機体解説 / 武装解説



F90 GUNDAM F90 ガンダムF90

サナリィの「フォーミュラ計画」によって誕生した 画期的なコンセプトの小型MS

UC0111の次期主力MS開発コンペティションにおいて、連邦軍は「性能を維持した調達容易な小型MS」という要求を出した。サナリィはそれに対し、極限まで機能を削ぎ落としMSをベースに多様なオプション装備で仕様変更を行うプランを提示する。それが「フォーミュラ計画」の初期構想で、ガンダムF90はその基体となる格闘戦仕様性能検証用試作MSだった。汎用型兵器への原点回帰をコンセプトに、MSの基本動作に必要な機構を排したうえでマイクロハニカム技術などを採り入れた設計を特徴としている。



ガンダムF90の設計をまとめた改設計画が、ガンダムF91の完成へと繋がっていくこととなる。



従来のMSをスケールダウンしたヘビーガンなどとは異なり、画期的な設計を盛り入れた機体だった。



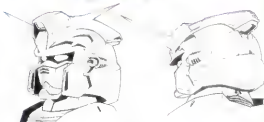
F90
GUNDAM F90
Rear view



F90
GUNDAM F90
Front view

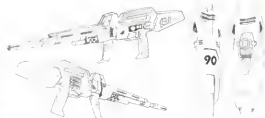
■頭部

本機の頭部は、旧来のガンダムタイプに倣った形状を特徴とする。また、機体と各種追加装備を制御するため、MSで初めてシナプス・プロセッサ数百万以上のホロキューブ系大処理能力コンピュータを採用している。さらに、プロセッサ上には擬似人検知データベースが構築され、シミュレートによるシナプス統合プログラムを行っている。



■武装

当初は必要最小限の設計によって一切の兵装を排除していたが、のちに頭部バルカン砲2基が装備された。また、標準的な機体兵装としてビーム・ライフルとビーム・サーベル2基、シールドが用意されていた。そのほか、機体各部に11箇所のハートポイントを開え、「ミッションバック」と呼ばれる前述のオプション装備が装着可能である。



SPEC

全高:14.8m 本体重量:7.5t 全機重量:17.9t
装甲材質:カンタリウム合金セラミック複合材
ジェネレーター出力:3,160kW
スラスター推力:74,760kg
装備:頭部バルカン砲2基・ビーム・サーベル×2・ビーム・ライフル、シールド

■機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m

F90
GUNDAM F90
14.8m

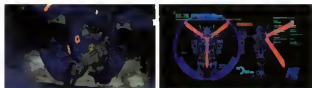
ヤシロ工事が開発したマイクロハニカム技術（ミノフスキー立方格子に沿って異種結晶化結合を生成させる生成技術）によって、従来の鋼を固める材料強度を躍如し、用いた最小・薄板化を表現している。



F90A GUNDAM F90 ASSAULT TYPE OPTION ガンダムF90 アサルトタイプ・オプション

ミノフスキー・クラフトを採用した ガンダムF90の長距離侵攻仕様

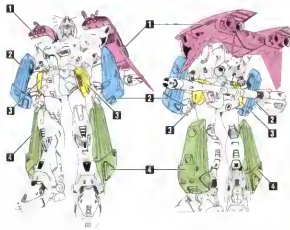
ガンダムF90は任務に応じてオプションを外装するミッションパック方式を採用し、高度なシステム化を実現していた。その仕様のひとつが、敵地への長距離侵攻を想定したF90A ガンダムF90アサルトタイプである。UC 0111にロールアウトしたガンダムF90に先行して完成していた本オプション装備は(同時に後述のD、S、M、Hも完成)、ミノフスキー・クラフトを採用した機動ユニットによってサブ・フライング・システムなしでの長距離飛行を可能としており、速度はガンダムF91を凌ぐと言われた。



機動性や航続距離に優れた機動用MSという設計思想は、一年戦争の観点ですでに存在していた。ガンダムF90においてはミノフスキー・クラフトの導入などによってその性能を付与している。

■ミッションパック アサルトタイプ

船降深くに侵攻してピンポイント攻撃を行うという運用を想定した本仕様では、ミッションパックは飛行性能と航続距離に重きが置かれている。その中心となるのは胸部と背部に装着される機動ユニット(「エアボーン・マニューバリング・ユニット」とも)で、ミッションパックの火力はそれほど高くない。ただし、当初は3機降だった兵装はのちに最大6機にまで増設可能とされている。



■メガ・ビーム・バズーカ



アサルトタイプはミッションパックに過度の火力を求めておらず、攻撃力を補うために独自の飛行兵装を採用している。それがメガ・ビーム・バズーカで、要塞破壊兵器に位置付けられている。また、ガンダムF90の標準兵装であるビーム・ライフルの携行も可能だったが、胸部ハードポイントがプロポラントストレージで埋まるためシールドは装備されなかった。



F90A
GUNDAM F90
ASSAULT TYPE
Front view

① 機動ユニット

マシン・キャノンとビーム・キャノンを2基ずつ備える。安定飛行のため翼は固定され、AMBACは関節のみで行う。

② 胸部プロポラントストレージ

両腕部ハードポイントにはプロポラントストレージが装着される。推進剤の容量は1基につき6tとされる。

③ 予備Eパック

腰部ハードポイントにはメガ・ビーム・バズーカやビーム・ライフルの予備Eパックを装着している。

④ 脚部プロポラントストレージ

脚部のプロポラントストレージは腰部のものより大型で、1基につき17tの推進剤を内蔵したと言われる。

SPEC

全高 14.8m 本体質量 3.8t 全機質量 180.3t
機体材質 ガンダリウム合金セラミック複合材
ジェネレーター出力 3.160kW
スラスター機力 184,800kg (実数 102,270kg)
武装 胸部ハイドラント×2、ビームサーベル×2、マシン・キャノン(シールド・ガン)×2、ビーム・キャノン×2、メガビーム・バズーカ

■機体比較



後方に張り出した機動ユニットが外観の形状で、前面投影面積は大きく変化していない。大断面内では機動ユニットの主軸で姿勢制御を行うが、ミノフスキークラフトで推力を得るため翼面積は小さい。



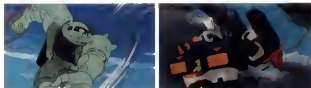
F90D GUNDAM F90 DESTROYED TYPE OPTION

ガンダムF90

デストロイドタイプ・オプション

敵主力に対する制圧戦闘を想定した
接近戦仕様のミッションパック装備形態

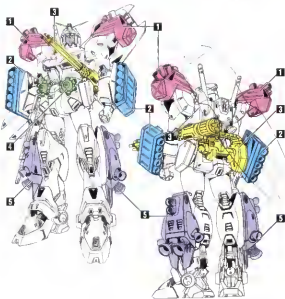
F90D ガンダムF90デストロイドタイプは、敵主力に対する面制圧に主眼を置いた接近戦仕様のミッションパック装備形態である。このミッションパックは対多数の戦闘を想定して大量の実体弾系火器を搭載しており、その設計は目標制圧後の掃討戦も考慮した運用コンセプトに基づいている。また、ミッションパックのなかで最も装甲が厚く、機動性にも優れていたと言われる。往年の名機、ジオン公団軍のMS-06 ザクIIを模倣させると評される声もあり、多彩な兵装と信頼性の高さが特徴だったと言える。



クランカーのような新しい兵器を揃える点もザクIIとの共通点と見られる。また、四肢などに外装されるボックスタイプのランチャーはU.C.0120年代の機体にも採用される。

■ミッションパック デストロイドタイプ

デストロイドタイプのミッションパックは、実体弾系兵装を中心に構成されている。これは近距離の戦闘における制圧力を重視したもので、一撃の破壊力よりも間断ない火力投射を優先していたと考えられる。ただし、各種兵装の装弾数は少なく、戦術的な移動力にも秀でていた。短時間で敵主力を制圧したのちは、ミッションパックを降伏する運用を想定していたのだろう。



① 4連装グレネード・ラック

両肩のハードポイントには4連装グレネード・ラックが装備される。各発射口の向きが異なり、全周囲に発射可能。

② 5連装ロケット弾パック

両腕部に装備されるのは5連装ロケット弾パックで、除装後を考慮して背部に予備のシールドがマウントされる。

③ メガ・カトリングガン

背面のウェポン・ラックを用いて装備される長砲身の火器。「マルチバレルマシンガンパック」とも呼ばれる。

④ MS クランカー

腰部前面にはMSクランカー2基を備える。マニピュレーターで握持する対MS用手榴弾だったと考えられる。

⑤ ブースター・モーター・パック

腰部ハードポイントに装備される追加ブースター。複数の小型モズルを備え、機動性の強化を担った。

F90D
GUNDAM F90
DESTROYED TYPE
front view

SPEC

全高:14.0m 全幅:2.8m 全重量:21.3t
機体重量:10.5t(フルアーマー・フル武装時)
ジェネレーター出力:3,180W
スラスター能力:140,800kg(実数91,270kg)
武装:頭部:マルチバレル機銃×2、ヒーム・ライフル×2、4連装グレネード・ラック×2、5連装ロケット弾パック×2、メガ・カトリングガン、MSクランカー×2、ヒーム・ライフル、ソーラー・バード

■機体比較

RX-78-2
GUNDAM
18.0mF90D
GUNDAM F90
DESTROYED TYPE
14.0m

背面に装備されるミッションパックはコンバクトな形状で、全体的なフォルムの印象は大きく変化する。機体長と機体幅の両方を考慮し、機体の動きを妨げる大型のオプションを避けたとも考えられる。

F90 バリエーション③



F90H GUNDAM F90 HOVER TYPE OPTION ガンダムF90 ホバータ입・オプション

ジオン公国軍の局地戦用MSに倣った ホバー走行能力を特徴とする地上戦仕様

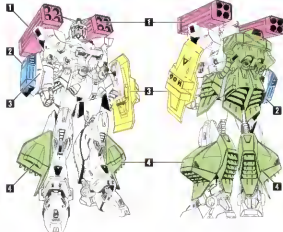
局地戦用MSの傑作機、MS-09ドムの特性を採り入れることで地上戦能力の向上を図った仕様だが、このF90H *ガンダムF90ホバータ입*である。本仕様はホバー・システムを組み込んだミッションパックによって、1G下の平地で最高時速480kmのホバー移動を実現している。また、その高速性能を生かした一撃離脱戦法を想定し、長射程の火器を装備している点も特徴に挙げられる。なお、本ミッションパックはガンダムF90に先行して完成していたという説と、UC0121に完成したとするふたつの説が存在する。



ホバー走行の高速性を武器とした一撃離脱戦法はドム系機種の強みであり、本仕様はそのコンセプトを堅持して地上戦における地位を確立しようとしている。

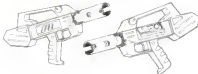
■ミッションパック ホバータ입

ホバータ입のミッションパックは、その名の通りホバーシステムを基幹としている。ホバーシステムは腰部と脚部のミッションパックに配され、追加パックパックに搭載した反応炉によって腰部と脚部のホバーを稼働させる構造となっていた。ただし、機体の小型化にともなって推進剤の積載量も減少しており、ホバーでの連続走行は4時間前後が限界だったとされる。



■ビーム・ピストル

本仕様には専用の携行兵装としてビーム・ピストルが用意されている。ミッションパックの兵装が大型で長射程であることから、取り回しがよく接近戦に対応しやすい小型の携行兵装を装備したとも考えられる。ホバーの連続稼働時間がさほど長くないという事情も、過剰な火力の付与に繋がらなかったのかもしれない。



F90H
GUNDAM F90
HOVER TYPE
front view



1 4連装大型ミサイル・ポッド

両肩部に装着された大型のミサイル火器。一撃離脱戦法に沿った本仕様の主兵装だったと考えられる。

2 腕部2連装 グレネード・ランチャー

右腕部ハートポイントに装備される小型兵装。左腕部にはシールドが装備されるため、片腕のみの兵装となる。

3 シールド

ガンダムF90に標準装備されるシールドよりも小型で、ホバー走行時の空気抵抗を配慮したものとも考えられる。

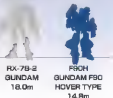
4 ホバー・システム

臀部全体を覆うUノドと、腕部に装着されるものの2種に分けられる。前者は腰部側面にもホバー機構を配する。

SPEC

頭頂高:14.8m 本体重量:8.0t 全機重量:21.1t
装甲材質:ガンダリウム合金セラミック複合材
ジェネレーター出力:3.160kW
スラスター推力:122.470kg
駆動装置:バナルカンボックス2、4連装大型ミサイルポッド×2、腕部2連装グレネード・ランチャー、ビーム・ピストル シールド

■機体比較



両機はミサイル・ポッドや腕部全体を覆うミッションパック、左右に大きく張り出した脚部のホバー・システムなど、全身のボリュームは大きく厚みがある。ただし、重量はそれほど増大してはいない。



F90M GUNDAM F90 MARINE TYPE OPTION

ガンダムF90 マリンタイプ・オプション

水中戦用強化オプション搭載の F90 バリエーション「Mタイプ」

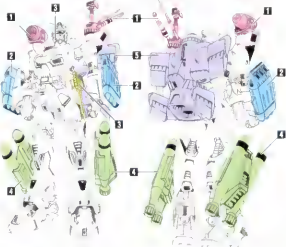
水中戦用強化オプションとして開発された、M Marine! タイプの F90M は、F90M GUNDAM F90M マリンタイプ・オプションである。オプション公開時の水陸両用MSを参考に開発されており、機体（装甲）強度やシネレーターの向上といった技術発展により、最大潜航深度 800m、最大潜航速度 90k という実用的な性能を発揮する。Mタイプのミッションパックは、U-011108、F90 本体のロールアウトに先行して完成した3種のひとつであり、最も成功したF90専用オプションとされている。



上陸作戦や遠征作戦において本機用MSは絶大な威力を発揮した。連邦軍兵士の水陸両用MSの開発はアクアシムやザク・マリナーのシリーズ以来確立されておらず、四半世紀のフランクがもたらしたと見られる。

■ミッションパック マリンタイプ

水中での運用に最適化されており、非ヒューム式の武装 ハイドロジェットといった水陸両用MSで確立された装置を有する。ハイドロジェットの推力は66,540kgで、14基（MS本体と合わせて65基）の姿勢制御ハニカムも搭載された。図以外では前巻のハートポイントに水中用センサーと思われるデバイスを追加したほか、機体防衛用のフリー・ニューヤードなどを備える。



■6連装アロー・シューター

水中戦タイプのMS用手持ち兵器。アクアシム用のハーパーガンと同系統の火器であり、矢状の弾体は目標に突き刺さるのも特徴。先端のソケットと交換する予備弾は、右側に1セットを搭載する。



F90M
GUNDAM F90
MARINE TYPE
front view

1 サーチライト
シュノーケルカメラ
右肩にサーチライト。左肩にシュノーケルカメラを搭載している。後者は潜望鏡タイプの水上監視装置である。

2 胸部3連装
マリン・ロケット・パック
対MS用の水中発射式ロケット。水中用ザクのサブロ・ク・カンと同じく地上での使用も可能と思われる。

3 ヒート・コンバットナイフ
水中での使用に適した、赤熱式の小型格闘兵器。非使用時は専用ホルダーを介してハートポイントに懸架される。

4 脚部ホーミング・トーチター
対艦攻撃用の大型誘導魚雷。左右で計4発を装備する。発射装置はハイドロジェット・ユニットを兼ねる。

5 ハイドロジェット用
バックパック

水を吸入、加熱、噴射することで浮力を得るハイドロジェットを駆動。昇降舵と方向舵が併設されている。

SPEC

全高 14.9m 本体重量 9.5t 全機重量 22.5t
装甲材質 ガンダリウム合金セラミックス複合材
シネレータ出力 3,100kW
スラスター推力 74,700kg ノーマルバック時
66,540kg ハイドロジェット用バックパック時
武装 胸部3連装 マリン・ロケット・パック×2 両脚ホーミング・トーチター×4
6連装アロー・シューター ヒートコンバットナイフ

■機体比較

RX-78-2
GUNDAM
10.0m

F90M
GUNDAM F90
MARINE TYPE
OPTION
14.9m



水中用装備を装着しても、旧来のMSより遙かに小型である。水中での運動性はミッションパックに依存しているものの、F90M本体の性能も手放さず、専用に開発された本機用MSに足りない運動能力を獲得した。



F90P GUNDAM F90 PLUNGE TYPE OPTION

ガンダムF90 プランジタイプ・オプション

ウェイブライダー機能を備える 大気圏再突入用オプション装備型

F90P ガンダムF90 プランジタイプ・オプションは、大気圏突入用に試作されたミッションバックを搭載した仕様にあたる（プランジ= PLUNGE は「飛び込む」の意）。大気圏再突入の際は、MSZ-006 ZガンダムのWR（ウェイブライダー）に相当する形態に変形する。ただし、Zガンダムがムーバブル・フレームによる複雑な変形を行うのに対し、F90Pはミッションバックの一部を展開するに過ぎない。これは材質の強化とウイング形状の設計変更により、突入時の被覆面積の縮小が可能になったためとされている。



ZガンダムのWR形態は、突入方向をフラインク・アーマーとサブユニット（シールド）で摩擦なく滑り抜け、F90Pは機体中央や面部が露出していたが、大気圏再突入能力に差異はなかったといわれる。

■ミッションバック プランジタイプ

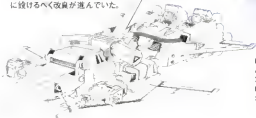
本オプションは大気圏突入機能を最重視しており、増加兵装は左翼のビーム・キャノンのみだった（右翼に中部隠用のバルカン砲を2門搭載とも）。ただし両前腕のフラインク・アーマーをシールドに転用可能なうえ、F90用の手持ち兵装も搭載できたため、戦闘能力に大きな問題はない。



ウェポン・バックの増加
機体は最新増加機と
構築される。側面は
尾翼の代わりにタンク
型ユニットを装備。

■大気圏突入形態

フラインク・アーマー（腕部ウイング）を機体下部に展開し、機首ユニットに頭部を収納した状態。MS形態からの変形には2秒を要する。ミサイル懸架用のハードポイントを主翼に設けるべく改良が進んでいた。



F90P
GUNDAM F90
PLUNGE TYPE
Front view



SPEC

頭頂高14.4m 本体重量10.7t 全機重量32.5t
装甲材質ガンダリウム合金セラミック複合材
ジェネレーター出力3,160kW
スラスター推力197,860kg（実燃122,470kg）
武装：連装バルカン砲×2、ビームキャノン（ビーム・サーベル、ビーム・ライフル）

■機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m

F90P
GUNDAM F90
PLUNGE TYPE
OPTION
14.8m

F90は非常可変型だが、F90Pではミッションバックによる変形を実現。ガンダムやZガンダムも大気圏突入能力を持つが、第二MSで可変とした点が画期的である。第二次オースルモビル戦役で使用されたという。



F90S GUNDAM F90 SUPPORT TYPE OPTION

ガンダムF90

サポートタイプ・オプション

F70シリーズの原型となった

長距離支援用オプション搭載仕様

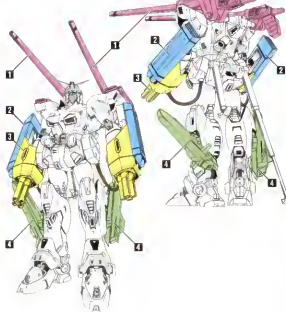
ガンダムF90に長距離支援用のミッションパックを搭載した形態が、ガンダムF90 サポートタイプ・オプションである。F90AやF90Dの作戦行動支援を想定した装備形態であり、追加兵装は長射程のもので占められている。RX-75 ガンタンクやRX-77 ガンキャノンなどの支援用MSと同様のコンセプトを有し、他の装備形態と比して汎用性や機動性こそ低いものの、火力と射程に秀でている。F70シリーズの戦闘支援型MS「F70シリーズ」の直接的な原型であり、その意味では簡素化された数少ないF90の装備形態のひとつといえる。



長距離支援用のコンセプトを有するMSは、ガンタンクシリーズ以来、ほぼ初めてで上半身の試験形態も採る。「F90S 開発期間」のF70 キャンガンダムを経てF71 Gキャノンとして簡素化に至った。

■ミッションパック サポートタイプ

F90Sのミッションパックの大半は長射程の兵器で、前線に装着される複合弾発射器や後援ウェポン・ラックの支持ジャッキも、増設兵器の性能を十分に引き出すための装備である。砲撃時には大きな発射反動を軽減するため、増加バックパック付属のアームで胴を固定したうえ、支持ジャッキを伸ばして接地させる。砲撃姿勢の解除は容易で、素早く陣地転換できるようだ。



F90S
GUNDAM F90
SUPPORT TYPE
OPTION
Front view

1メガ・ビーム・キャノン

増加バックパックに搭載された長砲身メガ粒子砲。F90Sの主兵装であり、長距離支援攻撃に直する。口径200mm以上のレール・キャノンともいわれる。

22連装ミサイル・ボッド

4連装ビーム・キャノンに併設された汎用ミサイル。誘導方式は不明だが複合弾発射器との連動式と思われる。グレネードのような使い方も可能だ。

34連装ビーム・キャノン

前腕を握る形で装備する連装メガ粒子砲。連射性に優れるようだがMS本体のジェネレーターだけでは稼働できず、両腕のエネルギータンクを併用する。

4クルージング・ミサイル

胴部に搭載される目標認識式自己誘導型の巡航ミサイル。形態を認識した目標を、自律的に追跡する。ミサイルキーク粒の影響を受けにくいようだ。



SPEC

全高: 14.8m 本体重量: 17.2t 全機重量: 25.2t
機中材質: ガンダウム合金+セラミックス複合材
ジェネレーター出力: 3100kW
スラスター推力: 74.760kN
武装: 連装メガ粒子砲×2、メガビーム・キャノン×2、2連装ミサイル・ボッド×2、4連装ビーム・キャノン×2、クルージング・ミサイル×2

■機体比較



新システムを求めて、ようやく旧来型MSと同程度の全高。ミッションパックの機体上、トップヘビーになりがちだが、支持ジャッキで機体を地面に固定できるため、砲撃時に転倒する可能性は低い。

F90 バリエーション⑦



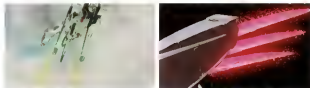
F90V GUNDAM F90 V.S.B.R. TYPE OPTION

ガンダムF90

ヴェスバータイプ・オプション

F91と同クラスの装備を有する 可変速式ビーム・ライフル搭載仕様

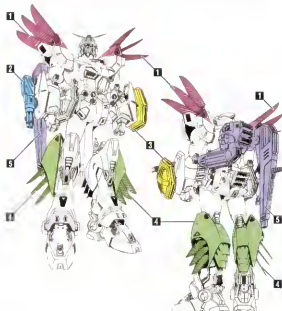
F90V ガンダムF90 ヴェスバータイプ・オプションは、ヴェスバーのテストベッドにあたるミッションパックを、F90に搭載した機体である。ヴェスバーの性能を引き出すに足る出力を確保できなかったため、F90本体のジェネレーターを高出力モデルに換装している(ミッションパックに増設とも)。出力向上にともないビーム・シールドの稼働も可能としたうえ、放熱能力も強化された。これによりF90Aの火力、F90Dの火力・防御力をあわせ持つに至り、その戦闘能力はF91に匹敵するまでいわれる。本仕様のデータのF91の開発でも反映された。



ヴェスバー、ビーム・シールド、両肩のスタビライザー兼用ラジエーターなど、戦闘形態はF91に準じている。その一方で最大機動時の消耗に配慮をかけるなど、少なからぬ変更もあった。

■ミッションパック ヴェスバータイプ

背負式に搭載するヴェスバーをはじめとして、のちのF91に近いフォルムと構造を有する。左肩のビーム・サーベル・ホルダー、右肩のビーム・シールド(予備)なども、F91と同様の配置である。その一方でウェポン・ラックに補助バーニアを増設しており、独自の構造も見られる。なお、手持ち兵装のビーム・ライフルは、収束率を高めた専用モデルが用意されている。



F90V
GUNDAM F90
V.S.B.R. TYPE
OPTION
Front view

1 放熱フィン兼スタビライザー

冷却装置と姿勢安定装置を兼ねる装備。出力向上にともない搭載された。F91用と異なり、常時展開されている。

2 胸部メガ・ガトリングガン

右胸前に増設した補助兵装。連射性に優れた小型機関砲で、F91では胸部メガ・マシンキャノンに相当する。

3 ビーム・シールド

ビームを面状に展開する防御装備。機体の状況によっては、ビームを均一に展開できない問題が指摘された。

4 脚部スラスタ

放熱フィンとスタビライザーの機能を兼ね備える増加推進器。機動性は向上したが、放熱能力は不十分だった。

5 ヴェスバー

増加装備と一体化した可変速式ビーム・ライフル。高速・高貫通力、低速・高破壊力のビームを撃ち分け可能だ。

SPEC

全高: 14.8m 本体重量: 6.7t 全機重量: 21.5t
 装甲材質: カンタリウム合金セラミック複合材
 ジェネレーター出力: 4,400kW
 スラスタ推力: 96,850kg
 武装: 頭部メガ・ガトリングガン、ヴェスバー、ビーム・サーベルx2、ビーム・ライフル

■機体比較

RX-78-2
GUNDAM
16.0m

F90V
GUNDAM F90
V.S.B.R. TYPE
OPTION
14.8m

頭高15m以下の小型MSなら、ヴェスバーやビーム・シールドなどの新装備を装備しており、第二MSならではの美麗な機体の姿がうかがえる。F91への過渡期的機体で、冷却性能には弱かった。

MS 機体解析 機体解説 武装解説



F90II GUNDAM F90II ガンダムF90II

F9Iを参考とした大改修で復活した ガンダムF90の2号機

第一次オールズモビル戦役で大成したF90の2号機に、大規模な改修を加えた機体がF90IIガンダムF90II(別名F90II Dash)である。ミッションパックの運用能力をそのままに、カタログスペックの向上、バイオ・コンピューターの搭載などがなされた。改修にあたって参考とされたのは基本設計を終えていた(既にロールアウトしていた)F9Iで、サナリイのスタッフはF90IIを「F9Iへのジャンピング・ボード」と位置付けていた。改修完了はU.C.0121(U.C.0122とも)され、同時に1およびLタイプ用オプションも完成したのだった。



6翼のパーツを喪失していたが、海軍のフレームの変更、冷却機構の更新などでF9Iに近い外見となった。



バグがあったという0000系ニューロ・コンピューターから、バイオ・コンピューターに換装した。

■頭部

側面に搭載するバルカン砲、ヘルメットの基本形状にF90の面影を残しつつ、額部V字アンテナやフェイス構造などにF9Iの影響が見受けられる。バイオ・コンピューター搭載による変更と思われる。



■胸部

ジェネレーター出力の向上、熱に弱いバイオ・コンピューターへの対策などから放熱機能が強化された。その一環として、F9Iのように胸部ダクトを大型化したのが、コクピットは腹部に備えている。



■背部

機体各部のハードポイントとウェポン・ラックはそのまま残されているが、両翼には新設計のバーニア・スラスターを標準装備する。ミッションパック搭載時は、外されることが多かった。



三翼の機体口のうち、上翼と中翼が埋込機構、中央翼までの肩アーマーと一体化している。



F90II
GUNDAM F90II
Rear view

OMS-90R ガンダムF90 火星独立ジオン軍仕様



F90II
GUNDAM F90II
Front view

SPEC

全高: 15.1m 本体重量: 7.7t 全機重量: 18.4t
標準武装: ガンダム用全武器・機合体
ジェネレーター出力: 3.880kW
スラスター能力: BD 960kg(翼部) 79 960kgp
武装: 連発バルカン砲×2、ヒーム・サーベル×2、専用ヒーム・ライフル、専用シールド他

■機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m

F90II
GUNDAM F90II
15.1m

改修前より若干大型化したものの、第二MSとして平均的なサイズに収まりつつ、さらなる周回性能を重視した。ハードポイントの位置は変わっていないため、従来のミッションパックをそのまま装備可航だ。

MS 機体解析 機体解説 / 武装解説

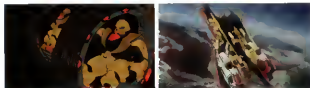


F90II | GUNDAM F90II INTERCEPT

ガンダムF90II インターセプトタイプ

サブ・フライト・システム搭載の F90II追撃・迎撃仕様

F90IIと同時に完成した2種のミッションパックのうち、追撃・迎撃任務を想定した1タイプ・オプションを搭載した仕様は、F90II ガンダムF90II インターセプトタイプである。本仕様の特徴は、SFS（サブ・フライト・システム）機能を有するフライト・シールドを装備する点で、これと脚部増設の推力増加ユニットを組み合わせることで、大気圏内外を問わず絶大な加速力を発揮する。姿勢制御バーニアは63基（ノーマルのF90IIは60基）を搭載し、そのうち58基がMS本体、5基がフライト・シールドに搭載されている。



MSとSFSの協同運用を大前提としたコンセプトは、ペスバのゲトラフとインランドに近い。本試験ながら大気圏突入性能を有するといわれ、その要ではZガンダムやF90Pに匹敵した性能性である。



F90II
GUNDAM F90II
INTERCEPT
Front view

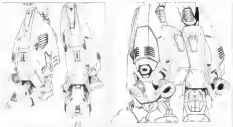
■フル装備状態

1タイプの全装備を搭載した状態。MS本体に直接増設するのは、脚部の推力増加ユニットのみである。F90IIにも搭載可能で、U.C.0136の本星宙域域ではF90IIが本星宙域の戦線に参加したという。この際の手持ち兵装は、核ミサイル搭載のビーム・ライフル兼用ショット・ランサーだった。



■推力増加ユニット

脚部（膝から足首）の前部と外側面を覆う形で搭載される推進器。これより、MS側の推進力は127,280kgにも達する。大容量のプロペラントタンクを併設しているようで、追撃・迎撃任務での最大推力の維持も懸念しないと思われる。フライト・シールドとの運動装置でもあるようだ。



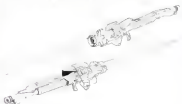
■フライト・シールド

SFS機能を持つ全長15m級のシールド。マシン・キャノン2門搭載する。本装備使用時の大気圏内移動速度は1800km/h、ホバー移動時の対地速度は700km/h前後に達する。翼収納状態が射出時、展開状態が滑空時となる。



■ビーム・ランサー

拡張ビーム・ショットガンとしても使用可能な大口徑ビーム・サーベル。1フィールドによりコーン状のビーム刃を形成するうえ、ピストルグリップ型の持ち手を備えており射撃に適する。後端はバーニアとなっている。



SPEC

全高15.1m 本体重量19.7t 全備重量29.6t
装甲材質:カンダリウム合金セラミック複合材
ジェネレーター出力:14,150kW
スラスター推力:170,110kg
武装:バルカン砲×2、ビーム・サーベル×2、フライト・シールド搭載マシン・キャノン×2、ビーム・ランサー

■機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m

F90II
GUNDAM F90II
INTERCEPT
15.1m

F90II本体とフライト・シールドのサイズはほぼ同じで、旧式MSのシールドと比較しても大型である。このサイズはSFSとしてだけでなく、大気圏突入時にMS本体を保護するためにも必要だったと考えられる。

MS 機体解析 機体解説 / 武装解説



F90IIL GUNDAM F90II LONG RANGE

ガンダムF90II ロングレンジタイプ

ビームと実体弾を使い分け可能な 長距離狙撃仕様のF90II

超長距離狙撃・攻撃用に開発されたLタイプ・オプションを搭載したF90IIが、F90II L ガンダムF90IIロングレンジタイプだ(Lタイプ同様、F90にも搭載可能)。先行開発されたSタイプと似た側面もあるが、Sタイプが制圧力や総合的な火力に優れた支援用であるのに対し、Lタイプはより離れた距離帯からの精密攻撃に適したスナイパー仕様となっている。狙撃任務に対応するため各種センサーが増強されたうえ、ビームと実体弾を使い分け可能なロング・ライフルを備えており、目標を選ばない超長距離狙撃が可能であった。

ビーム・実体弾共用のMS用兵器は、ベスパのマルチ・バズーカと本機のロング・ライフルは存在しない。



F90II
GUNDAM F90II
LONG RANGE
Front view

■ロング・ライフル

ビームと実体弾を切り替え可能な長距離狙撃銃。超高出力ビームの有効射程は100kmを超える。120mm高速徹甲弾は、爆発式バーニア・バレットにより一度のみ弾道を変更できる。ただし弾頭内の記憶チップに事前入力が必要となる。イルルヤンカシュ要塞攻防戦でも使用された。



切り替えは、銃身内の17フィート形成技術による。中央に実体弾の弾倉、後部にエネルギー・バックを構築した。

■精密照準用複合センサー

背部増設の追加スラスター・バックには、推進器やサーモ・スコープなどが設置されている。左肩には、精密射撃用の複合センサーを搭載する。



■連装ミサイル・ランチャー

各前腕に搭載する連装ミサイルのランチャーにはセンサーも搭載している。搭載位置の都合上射界が広く、補助兵器として使用されるようだ。



ロング・ライフルは後部のウェポン・ラックに搭載されており、非使用時には折りたんでバック・バック・バックに固定できる。

SPEC

頭頂高 15.1m 本体重量 11.9t 全機重量 27.2t
装甲材質 ガンダリウム合金セーフク複合材
ジェネレーター出力 4,920kW(実効 4,290kW)
スラスター推力 108,960kg
武装 連装バルカン砲×2 ヒーム・サーベル×2、ロング・ライフル、連装ミサイル・ランチャー×2

■機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m

F90II
GUNDAM F90II
LONG RANGE
15.1m

ロング・ライフルはMS本体より長大であるため、近接戦闘はバジーン。ただしコスモバロニア座敷戦争に投入された機体は、ハイ・コンピュータの制御不足から近接戦でシステムエラーを起こした。

MS 機体解析 機体解説 武装解説



F90III CLUSTER GUNDAM クラスター・ガンダム

コア・ブロック・システム採用の F90第3仕様Yタイプ

F90 III クラスター・ガンダムは、F90の3号機を基に次期主力MSのテスト機として開発された。型式番号末尾の「Y」から推察できるように、26種のオプションのひとつ「Y (Youngster) タイプ」にあたる「他のオプション搭載機と異なり、機体自体の仕様である」。本機最大の特徴がコア・ブロック・システムで、機体構造が大きく変更された。コスモ・バビロニア連同戦争時、フロンティアIから脱出した本機のコア・ファイターF90IIIがコロニー外でMS本体と合体し、クロスボーン・パンガードの追撃部隊を撃破している。

■機体構造

コア・ブロック・システムや同時期に開発されたF91と同系の技術を盛り込みつつ、ミッションパックに対応したハードポイントやウェポン・ラックといったF90の特長機を維持している。ハードポイントはエネルギーの供給にも対応する。



バックパック

コア・ファイターの増加ブースターを兼ねる。F90やF90IIのものとは異なりハードポイントを備えていないため対応するミッションパックは限られるが、機力が向上している。



F90III CLUSTER GUNDAM
Rear view

■武装

ビーム・ライフルやビーム・サーベルなどの標準的武装以外にも、頭部のビームバルカン、腰部左右のハートポイントに搭載可能なメガビーム・バズーカなどの新型も搭載。ビーム・サーベルはVタイプ用と異なるモデルで、オプション化されている。

ビーム・ライフル

標準装備の手持ち火器。後端にエネルギーバックを備えることで、ウェーブのような運用が可能とされる。



メガ・ビーム・バズーカ

大型ビーム火器。腰部左右のハートポイントに搭載することで、ウェーブのような運用が可能とされる。



■コア・ブロック・システム

クラスター・ガンダムは、データ管理と管制中継をコア・ファイターに集約する形で設計された。データの漏洩防止、パイロットの生還率向上などが目的であり、対抗企業(AE社)がF計画のデータを盗用しているとの情報もあって採用されたという。

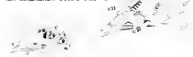
コア・ファイターF90III

胴体内に収納される軽戦艦機で、脱出装置を兼ねる。のちのF97と同じく、MSの背中から出入りする。



コア・ブースター

コア・ファイターとクラスター・ガンダムのバックパックが合体した形態。加速性能が突出して高い。



F90III CLUSTER GUNDAM
Front view

SPEC

全高:15.0m 本体重量:19.7t 全機重量:28.5t
装甲材質:ガンダリウム合金セラミック複合材
ジェネレーター出力:4.55MW
スラスター推力:120,760kg
武装:頭部バルカン砲×2、ビーム・バルカン×2、ビーム・サーベル×2、ビーム・バズーカ、ヒーム・ライフル、メガ・ビーム・バズーカ×2

■機体比較



RX-78-2
GUNDAM
18.0m

F90III
CLUSTER
GUNDAM
15.0m

小型MSながら、胴体をA・Bパーツに分割することなく、コア・ブロック・システムを実現。合体方式はコア・ファイターの主要区画と胴体が並行に配置されるホリゾンタルインザ・ボディ方式である。

関連 MS ラインナップ



F91 GUNDAM F91 ガンダムF91

保守的な
思想から
誕生した
小型MS



サナリイ
主導による
小型MSの
あるべき姿



新装備の
運用試験を
目的とした
Fシリーズ



■ RGM-109 ヘビーガン

地球連邦軍の依頼により、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社が開発した小型MSで、最初期の第二期MS。RGM-89ジェガンの後継機という位置づけであり、基本的な部分の設計はジェガンをそのままダウンサイジングしたに近い。なぜなら当時のAE社は小型MSに徹底的な姿勢を示し、第四、第五世代MSに注力していたため、そのため本機は採用こそされたものの、連邦軍の要求する能力は満たせずに終わっている。

■ F90 ガンダムF90

連邦政府の指示を受けたサナリイ（S.N.R.I. / 地球連邦軍海軍戦略研究所）は独自に小型MS開発計画（フォーミュラ計画）を開始。U.C.0111に開発された新規格の小型MSが本機である。最大の特徴はオプション換装による高い汎用性の獲得にあり、本体と並行してA～Zまでのオプション（ミッションパック）を用い、機体各部に用意されたハードポイントに装着することで、状況に応じた重なる能力を発揮させるのだ。

■ F90V ガンダムF90ヴェスパパーティ

サナリイが開発したF90は26種類のミッションパックを有するが、うち「Vタイプ」と呼ばれる新型火薬試験仕様パックを装備した機体。このパックは新型ビーム兵器V.S.B.R.（ヴェスパバー）とビーム・シールドで構成されているほか、本体に搭載されたジェネレーターも高出力タイプに換装。これによって大量の電力を必要とするヴェスパバーとビーム・シールドの併用が可能となった。その一方、燃料問題を抱えていたとされる。



兵器にも負い下られ、U.C.0180年代のマクドニアコロニーでは試作配備されていた。ただしガンスカール帝国内の小規模に分散を続けている。



基本装備はスタンダードなため、攻撃力強化のための強化プランが用意された。これは、ヘビーガンバードウェポンもしくはヘビーガン重砲攻撃型と称される。



U.C.0123に勃発したコスモバビロニア内戦戦争に投入されたガンダムF91は本機の候補機であり、サナリイを代表する機体となった。



ミッションパックを装着していない本体の候補は固めてスタンダード。独自開発軍の求める「汎用性に優れた高性能機」に立ち上った機体として誕生した。



F91の量産するヴェスパバーは本機の量産をより支障させたもの。大規模コンデンサーを内蔵しており、本体から分離した状態で数量は使用可能である。



サナリイが開発した重砲攻撃型MS、Gキャンノにモヴェスパバーを装備したバリエーション型（Gキャンノ ヴェスパパーティ）が存在する。

CV (クロスボーン・パンガード) が開発したコスモ・バビロニア連隊隊形に因りて、フロンティアIV 後援の機体として投入された。



独自構造が目を引くCV製MSの先駆け



CVのMS大編成、ドレム・ロナが機体、優秀なパイロットだが、機体の流れ子というコンプレックスがら顔は過大評価する者はいらる。



指揮官に与えられたピーキーな高性能機



コスモ連隊主隊を導くマイツツアー・ロナを機父とするCVの後援ペラ・ロナ(セリフ・アチャイルド)に本音が与えられた。



CVの象徴として戦場を駆け抜けたMS



■XM-01 デナン・ゾン

異族を中心とする社会体制 (コスモ貴族主義) の確立を目指すCVは、連邦軍に対抗するための軍力を独自に整備。AE社やサナリィとは一線を画する小型MSを複数機隊にわたって開発した。そのうちでもCV最初期の実戦用MSが本機である。ゴブールを兼ねる連邦ハイブリッド・センサーや真面に露出させることで燃焼可能にした大型ジェネレーターなど、CV機の特徴は本機から継承されたといっても過言ではない。

■XM-04 ベルガ・ダラス

一般兵用に開発されたデナン・パンを指揮官用に発展させたベルガシリーズのうち、近接戦闘能力を重視したタイプ。設計はフルーム機体から大幅に変更され、ベース機を上回るマッヅなスタイルとなった。さらに胸部にはジェネレーターに直結する独立型スラスターを組み合わせた新型推進システム (シェルフ・ノズル) を搭載。機動性と運動性の向上に成功した反面、完全に乗りこなすには相応の技術が必要とされる。

■XM-07 ビギナ・ギナ

戦闘部隊指揮官用として開発されたダギ・イルスをベースに、実用用MSとして製造された機体。シェルフ・ノズルをさらに発展させたフィン・ノズルを背部に設置。エネルギー・ロスが少なくAMBAC態としても動作するため、高い機動性を発揮する。ちなみにCVの象徴として、戦場に駆け出された部隊を従える者になつていった。だがペラの初陣において連邦軍MS (ガンダムF91) と接触。そのまゝCVを風化してしまつた。



機先を制し、戦場を襲撃とせずには力に及ばせるショク・ランサーを標準装備。ガンダリウム合金を備へるほどの能力を有する。



CV機の象徴となったダグ・タイプ。作戦用MSとしてUC0121のMSショーで一般公開されたのだが、連邦兵隊用を前身に開発されたモデルだった。



機体はビームフラックを駆動。機体に対する示威行為に用いられるが、ミノフスキー粒子放射下での危険な命令伝達に用いられた。



縦裂いたパイプのようなスラスター・ユニットからなるシェルフ・ノズル。3機ひと組のユニットを2機組み合わせること従軍機を上回る機動性を確保した。



機にはCVのエンブレムが描かれていたのだが、CVを継承した機に継りつがされている。



胸部から生えた8機のフィン・ノズルはひとつひとつ独立動作。加速や軌道変更、姿勢制御など、さまざまな面で戦力を発揮する。

MSパイロット——シーブック・アノ——

コスモ・バビロニア建国戦争の戦火に巻き込まれ、
生き延びるためにガンダムF91を駆った少年

シーブック・アノはガンダムF91のパイロットとしてコスモ・バビロニア建国戦争に名を残した人物である。だが、それ以前の彼は民間人の少年に過ぎず、ガンダムF91に乗ったのも偶然の通り合わせでしかなかった。それでも、仲間たちとともに生き延びるため必死に戦ったシーブックは、その先にニュータイプの可能性を垣間見ることになる。

フロンティア・サイドのコロニー、フロンティアIVに暮らす高校生だったシーブックは、クロスボーン・ガンガード(CV)のフ

ロンティア・サイド襲撃に巻き込まれる。同年代の子供たちとともに戦火を逃れるなかで、シーブックは親友の死やセシリー・フェアチャイルドとの別離に直面する。それを乗り越えてフロンティアIIにたどり着いたシーブックを持っていたのは、母が手掛けたMS——ガンダムF91だった。そして、ガンダムF91のパイロットに抜擢されてCVとの戦いに身を投じたシーブックは、戦禍を通じて才能を開花させると同時に、争いの根元へと追っていった。



フロンティアIVのハイスクールに属する普通な少年だったが、学園祭の当日にCVの襲撃に遭って運命を余儀なくされる。ともにコロニーからの脱出を助けた子供たちの中心的存在となり、年長者のひとりとして海運行の先頭に立った。



シーブック・アノ Seabook Arno

DATA

年齢:17歳 所属:民間人(フロンティア総合学園ハイスクール工学部機械科2年生) 階級:—— 出身:フロンティアIV 能力:MS操縦、ニュータイプ



自らの運命を行動によって父とスズリーを死なせしめる。その後悔の念に苛まれるながらも戦いに臨んだ。



ガンダムF91のパイロットを襲った、ビルキット・ビリヨとともにスペース・アークの守りを要した。



フロンティアIでスペース・アークに身を寄せていた時期の留影

▶フロンティア・サイド襲撃におけるシーブックの奮闘

U.C.0123.03.16に起こったCVのフロンティア・サイド襲撃に遭ったシーブックは、仲間たちとともにフロンティアIVから脱出し、逃げ込んだフロンティアIで地球連邦軍の練習艦スペース・アークに保護される。そこで人手不足からガンダムF91のパイロットを任せ、初陣となったCVドレル大尉との戦いでMS3機を撃破する戦果を挙げた。その後、逃路行のなかではくれないセシリー・フェアチャイルドを保護して単身フロンティアIVに潜入したが、結果として父スズリー・アノの死を

招いてしまう。一時は失意に沈みながらも、3月30日のフロンティアIにおける戦役では敵MS3機を撃破し、2機を戦闘不能に追い込んだ。さらに、CVを撃退したペラ・ロナ(セシリー)とともに、フロンティアIで繰り広げられたバグによる粛清作戦を目の当たりにしたシーブックは、その首謀者である鉄板面を討つことを決意する。そして、鉄板面が操るMAラフレシアとの交戦に及び、ガンダムF91を中破させながらもラフレシアの撃破に成功したのである。



ラフレシアとの戦役のなかで、宇宙に漂流したセシリーを救出する。その後の活躍も一役には使われている。



戦いのなかで才能を開花させ、ガンダムF91の限界性能を引き出して鉄板面のラフレシアを倒した。



シーブックのノーマルスー
グは船内のもとはや
や機体と異なる。

シーブックの潜在能力を引き出した意思

シーブックはCVによるフロンティアTV襲撃で親友のアーサー・ユングを失った際に「大人の都合だけで殺されてたまるか」という言葉を口にした。それがシーブックが戦いに身を投じた最大の理由であり、自分と周囲の人々が生き延びるためにガンダムF91に乗ることを選べた原動力だったと言える。逆襲行のなかでぐれたセシリーも、シーブックにとっては守るべき仲間のひとりで、彼女がロナ家の人間と知ってなお危険を冒して救出しようとしている。また、セシリーを守ろうとしたシーブックの意思は、ラフレシアとの戦いで宇宙に投げ出されたセシリーの「生命の鼓動」を引き寄せ、たったひとりで漂流する彼女を救出する力となった。身近な人間を大切に思い、彼らを守りたいと願ったシーブックの単純で真っ直ぐな意思は、彼にニュータイプへの階段を上らせることとなったのである。



セシリーを救うシーブックは彼女が持っていた花にたどり着き、その先に求める人を見つけるのだった。

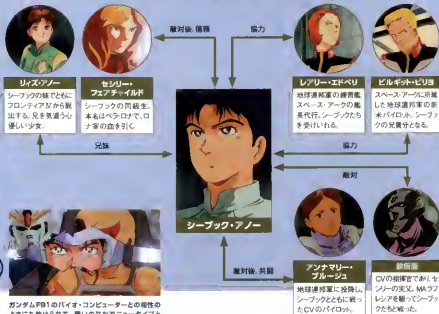


セシリーを救出するための
道案内に助けられた
シーブック。



ロナ家に閉じこめられたセ
シリーを救出し、彼女を
助け入れた。

シーブック・アノーを巡るさまざまな人間関係



▶母モニカへの反発と和解

シーブックは家族を養うにサナリアでの仕事に没頭した母モニカ・アノーを快く思っていなかったが、戦いのなかで和解することとなった。



戦い離れになっ
ていたモニカと
スペース・ア
ークで再会し、周
囲の状況が変
化を促す。

モニカはバイオ・コンピューターを研究する工学者で、ガンダムF91の開発に関わった。



▶MAIN MS

F91 ガンダムF91

サナリアが開発した地球連邦軍の小型MS。ウェスバーやビーム・シールド、バイオ・コンピューターなどの新技術が投入された高性能機。

RXR-44 ガンタンクR-44

フロンティアTVの戦争博物館に展示されていた小型可変MS。シーブックたちがフロンティアTVからの脱出行に利用した。



試験運用中のガンダムF91がCV（クロスボーン・バンガード）の戦局に巻き込まれたことから、戦いの趨勢は変化していくことになった

戦場の舞台となった宙域



新サイド4（フロンティア）

地球と月の間に位置する（ラグランジュ）1に位置するスベース・コロニー群のこと。U.C.0079の頃はサイド5（ルウム）と呼ばれ、一年戦争後には（ルウム戦役）が行われた場所として知られる。この結果、大半のコロニーは破壊・近傍に生じた暗黒宙域には、一年戦争後にデラーズ・フリートが活動拠点（策の国）を建設したとの記録もある。地球連邦政府が実施したコロニー再生計画によって名称がサイド4に改められたが、その後も長らく放置されていた。それでもU.C.0111、12頃から行われた再建計画によって入居者が増加し「フロンティア・サイド」と呼ばれるようになった。

フロンティアIV

U.C.0123、CVの襲撃によって占拠され、コスモ・バビロニアの首都（コスモバビロン）が置かれることになった。

フロンティアI

資源コロニーで鉱物採集小惑星が稼働されている。またサナリイの研究機関があり、ガンダムF91の調整作業が行われていた。

01

フロンティアIへの運送

U.C.0123 03.16、新興コロニー群「フロンティア・サイド」を、CVを乗るMS部隊が襲撃。コロニーに駐在する地球連邦軍部隊を壊滅させるといふ事案が起こった。連邦軍隷属艦スベース・アークは、サナリイからの依頼で新型MS（F91）の運用試験を行う予定だったのが、襲撃を避けるためにスベースコロニー「フロンティアI」に避難。すると連邦民や抵抗派を名乗る武装勢力がスベース・アークに集結し始め、実戦経験のほとんどない義勇兵とはいえ、戦闘への参加を余儀なくされることになったのだった。



機体にかモプラーを装着しながら戦闘準備を進めるMS。スベース・アークの乗組員のためF91の起動が急がれた。

02

F91の起動準備

CVに封抗すべくF91の起動準備を進めるスベース・アークのメカニックだったが、問題が発生した。大抵、準備はマニュアル映像を閲覧することで進められたのだが、機体の要動中継であち/バイオ・コンピュータの配線方法がわからなかったのだ。「八掛けの吊り橋」という諷刺に首をかしげるメカニックたち。だが資源採掘中に、マニュアル映像に登場するサナリイ技術者（モ・カ・アノ）の子ども（シーブックとリリス・アノ）がいることが判明。リリスの言葉から隠匿の意味が察知され、F91の起動が可能になった。



「A組の機・体」にはあやとり型の型入れ、リリスと遊んだ思い出から、モ・カ・アノの言葉を思い出したようだ。

03

CVとの初戦闘

スベースコロニー・フロンティアIVの占拠を完了したCVがフロンティアIへの進攻を開始。スベース・アークも迎撃に参加することとなり、F91をはじめとするMS部隊が順次参戦していった。この時、F91のパイロットに抜擢されたのは民間人の少年シーブック。母屋が倒壊に陥った機体なら相性がいいはずと、この抜擢を重く見てパイロット役を押し付けられたのだった。初めて戦場に放り出されたシーブックは適当すぎるが、それはシーブックの意図を読み取ったかのように的確に稼働し、CVのMSを次々と撃破していった。



工業科と似たような機体は試作型で、シーブック、しんしん、両方のプロで、相手を、予想外の結果を挙げている。

デナン・ゲー 他

戦況の経緯

フロンティアIVへのCVの襲撃に端を発するコスモ・バビロニア建国戦争は、匿居した人類と地球連邦政府を是正したいとの高貴を願いから生じたものである。U.C.0123当時の人間社会は過剰の極みに達し、これを統御する立場の連邦政府も保身と既得権益の維持にしか関心がなかった。この現状を憂えたマイツァー・ロナが「アノリス・オブリーグ」（高貴な人間が負うべき義務）を基盤とするコスモ貴族主義を提唱。貴族を頂点とする階級社会の確立を思い描くようになった。その先兵となったのが私設軍部隊CVで、フロンティア・サイドの占拠後、マイツァーは地球連邦を視野に入れていたようである。

U.C.0055

シャルンホルスト・ブッホ、ジャンク会社「ブッホ・ジャンク・インク」創業。

U.C.0068

シャルンホルスト・ブッホ、旧欧州の名家ロナの名を承継。

U.C.0081

3月14日 ブッホ・コンツェルン、利益の公益還元として職業訓練校を設立。

U.C.0100

連邦軍、ジョン共和国の自治権放棄をもって、地球連からの戦況の終結を宣言。

U.C.0102

サナリイ、連邦政府にMSの小型化を提言。

U.C.0105

11月 AE社、独自に小型MSの開発に着手。

U.C.0106

ブッホ・コンツェルン、独自にCV（クロスボーン・バンガード）を設立。

U.C.0111

9月 サナリイ、F90 1号機および各種オプションを完成。

10月

連邦軍、次期主力MS採用コンペを開催。サナリイのF90がAEのMSA-120を下して試制採用される。

セシリーとの再会

U.C.0123.03.26、フロンティアで、目の刺戟を受けたCVは、フロンティアTVで「コスモ・バビロニア食糧宣言」を実施した（ちなみに会場にはシーブックが潜入しており、コスモ・バビロニアのアイドルに持ち上げられた友人のセシリー・フェアチャイルド（ペー・ローナと再会している）。その後、CVはフロンティアへの本格的な進攻を開始。まず資源衛星を制圧すると、コロニー本体に先行部隊を派遣した。シーブックの機体F91はたまたまに迎撃に向かい、先行部隊と接触。交戦状態に入ったが、偶然にもペーの提案したMS（ビギナ・ギナ）と対峙することになる。ペーの方でもシーブックの存在を認めて停戦。無体と共にスペース・アークに投降することになった。



ビギナ・ギナを相手に1対1の戦闘を繰り広げるF91。機動性こそF91が相手を上回れ、最終的にはペーの提案が功を奏した。

V ビギナ・ギナ 他

無人兵器との交戦

資源衛星の核融合発電施設を占拠したの戦を受けたCV司令官・鉄飯面が機軸計画を開始した。彼は義父であり、コスモ・バビロニア帝国であるマイティ・ローナから特命を受けており、それを現実化する計画（ラフレシア計画）を企図していた。敗北した人類と社会を倒し、新たな秩序を構築するための計画である。そのために鉄飯面が用意したのは無人兵器バグだった。無敵による粛清ならびに良心も痛まないという一石二鳥の冷血な計画が実行された。フロンティアにバグが放出された。たちまち民間人の間に騒動が広がり、調査に向かったシーブックとセシリー、連邦軍パイロットのビルギン・バジは目前の光景に戦慄した。



バグに対するF91。しかし、相手の物量に次第に圧倒されていき、ついにビルギンが犠牲になってしまった。

V バグ

MS OTHER 戦記

「ガンダム」の名のいわれ

サナリが開発したフォーミュラシリーズの最新鋭機は、いまだこそ「ガンダム F91」と呼ばれることが多いといえ、開発上のコードネームは「F91（P99 1号機）」であり、開発現場でガンダムの名が使われることはなかった。それでは、なぜガンダム F91 という名称が定着したのか。それには本機の起動前夜のイベントが関係している。

CVの機体に備えてF91の整備が進められていた頃、レアリ・エドベリ（スペース・アーク艦長代行）とマヌエラ（同乗艇代行）が格納庫を訪れたことがあった。その際、マスクを閉じた顔を見出したレアリが「昔、こんな顔のMSがあったわね」とつぶやき、それを受けたマヌエラが「ほら、ガンダムって言ったわね」と返答。そこからレアリの発言で本機のコードネームは「ガンダム F91」となったのである。ただしこれはあくまでスペース・アーク内での符丁であり、騒動終結後に同様のコードネームが使われるようになったかについては定かではない。



マスクを閉じたF91を前にして話しかけるレアリ。そんな彼女の言葉からひとつの古い記憶が浮かび上がった。



レアリの言葉からマヌエラが「ガンダム」の名を連想。以後、レアリの一言で本機のコードネームが決定されている。

ラフレシアと決戦

セシリーが降参を破壊したことに気付いた鉄飯面は自ら巨大MAラフレシアで出撃。途中、月から派遣された連邦軍増援部隊を撃滅させると、続いてビギナ・ギナに襲いかかった。セシリーも懸命に抵抗するが、脳波コントロールで多数の機体（テタクラーク）を操作する鉄飯面に捕縛されてしまう。倒れて戦場から消えたF91がビギナ・ギナ救出を図るが、ロボに行く手を取られ、接近さえままならない。だがここで思わぬ出来事が起こった。シーブックの感情を感知したF91のバイオ・コンピューターが機体のリミッターを解除。最大稼働モードが発動したのだ。機動性が格段に向上したF91は「質量のある機体」を生じさせて鉄飯面を倒す。ついに目標を見届けたロッドがラフレシアのコアを貫いたのだ。



最大稼働モードに移行したF91は機体全体的に変化。さらに装甲面や機体構造が刷新されて性能を向上させた。それが鉄飯面を倒すことに成功した。ちなみに最大稼働モードは排熱問題でバイオコンピューターに過度の負担を強いるため、セシリーを救ったと誤解してシーブックは攻撃を辞めた。



あまりの光景に鉄飯面も恐怖を感ずる。接近するF91を「バケモノ」だと評している。

V ラフレシア 他

U.C.0112

6月

AE、極端にSFP（シムエーション・プロジェクト）を始動。

U.C.0113

4月

ハウゼリー・ローナによる「地球保全法案、過当医療廃止法案」が廃案となる。

U.C.0116

7月

サナリ、F91をロールアウト。

U.C.0118

ハウゼリー・ローナ、暗殺される。

U.C.0118

CVの軍事指導者である鉄飯面、ラフレシア・プロジェクトを始動。

U.C.0123

3月16日

CV、フロンティア・サイドを襲撃。

機械がつかないふたりの絆

ラフレシアを撃破したものの、セシリーが宇宙に放り出されてしまった。捜索しようにも周辺には無数の破片が散らばり、見つめるのは至難の業。するとモニカが妙案を思いついた。バイオ・コンピューターとセンサーを直結させてパイロットの知覚を数倍に拡大させるというのだ。半信半疑のままに申し出を受け入れたシーブックの提案に「セシリーの花」のイメージが浮かぶ。そして花の先には宇宙を漂うセシリーの姿があった。こうしてふたりは奇跡的な再会を果たしたのだった。



ふたりの再会によってひとつのエピソードは幕を下ろしたのだが、真実はまだ始まったばかりである……

サナリによって開発されたF91 ガンダムF91は、武装バリエーションが複数存在。さらに、「フォーミュラ計画」関連機は後の新型機を生み出す技術的プレイクルーとなった。

KEYWORD

サナリ

地球連邦軍の超超機関である高専戦略研究所 (S.N.A.R.I. = Strategic Naval Research Institute)。MSの小型化を推進したのちに「フォーミュラ計画」を実施し、F90 ガンダムF90をはじめとするFナンバークラスの機体を開発した。サイド4などに配備を有する。

フォーミュラ計画

サナリが推進した小型MS開発計画。MSの開発だけでなく、MCA構造やバイオコンピュータといった最先端技術も導入した。本計画で開発されたガンダムF90は、コンパティビリティでAE社のMSA-120を下し、連邦軍の次期主力MS試作機になった。

ミッションパック

ガンダムF90用のオプションで翼や脚部、脚部などのハードポイントに装備する。任務に応じたミッションパックの装備によって、様々な任務に対応できるようになった。また、異なるミッションパックの搭載も可能であり、高い運用性を有していた。26種の開発が計画されている (27種との説もある)。



F90A

ガンダムF90
アサルトタイプ・オプション

F90D

ガンダムF90
デストロイタイプ・オプション

F90H

ガンダムF90
ホバータイプ・オプション



F90M

ガンダムF90
マリントップ・オプション

F90P

ガンダムF90
ブラジタイプ・オプション

F90S

ガンダムF90
サポートタイプ・オプション

F90V

ガンダムF90
ヴェスパータイプ・オプション



オプション

F90

ガンダムF90

サナリがF計画において開発した格闘戦仕様的小型MS。マイクロナニカム構造の採用に加え、小型ジェネレーターを2基搭載することで、従来機を超える高出力を獲得するに成功。また、擬似人格コンピュータを機体の制御に用いている。

改良

F90II

ガンダムF90II

火星独立ジオン軍に奪取されたガンダムF90の2号機を回収、修復した機体。胸部フレームの変更や新型ジェネレーターへの換装などが行われた。また、制御系もバイオコンピュータに変更され、その総合性能は1号機を凌駕するとされる。



改良

F90III Y

クラスター・ガンダム

ガンダムF90の3号機をベースに開発された機体。形式番号末尾の「Y」は「Young star」を意味する。機体保持やデータ回収、パイロットの生存性向上のために、コア・ブロック・システムを採用している点が特徴。専用ブースターはバックパックとしても運用できる。



F91 ガンダムF91

F90V ガンダムF90ヴェスパタイプオプションをベースに開発された機体で、「現時点でのMSの限界性能の達成」を開発コンセプトとしている。MCA 推進の採用によって機体重量を大幅に軽量化。さらにヴェスパー・ビーム・シールドを標準装備している。パイオコンピューターを搭載しており、機体の最大稼働時にはフェイスガードが展開すると同時に、MEPE（全量制動装置）が発生する。通常はリミッターが設けられており、パイロットが機体の動きに附えられずパイオ・コンピューターが判断した場合に解除される。



発展



**RXF-91
シルエット・ガンダム**
AEが推進した「シルエット・フォーミュラ・プロジェクト」で開発された機体。開発に当たっては完全法に入手した「F計画」のデータが使用されたといわれる。高性能教育型コンピューターのほか、ヴェスパーを搭載する。

生産



F91 量産型ガンダムF91

ガンダムF91の量産仕様機。フェイスガードの開閉やMEPEによる機体の冷却は考慮されていなかった。本機のカスタム機にあたるハリソン・マディン大尉機は、パーソナルカラーの塗で塗られているほか、量産稼働時はフェイスオープンと放熱フィンのみで機体の冷却を行っている。

武装変更



F91 ガンダムF91 バックキャノン装着型

ガンダムF91の長銃バリエーションのひとつ。ヴェスパーが想定される性能を発揮しなかった場合に備えて開発された。4連装ビーム・ガトリングガンとミサイル・ランチャーで構成されたウェポンユニットを装備。大火力による面制圧で威力を発揮した。

武装変更



F91 ガンダムF91 ツウィン・ヴェスパー 装着型

左右2基ずつ計4基のヴェスパーを装備した、ガンダムF91の攻撃力増強タイプ。ジェネレーターに改良が加えられており、効率的な運用が図られた。さらに機動力低下を避けるため、ヴェスパーにも補助スラスターが設けられている。

強化

F91RR ガンダムF91RR

ガンダムF91にノンローアップユニットを組み込んだ重装甲仕様で、胸部と両脚部にヴェスパーとビーム・シールドを、両腕部にはヴェスパー・サーベルを追加装備している。重武装化によって機体サイズが大型化したほか、各装備を任意でバリエーションできないなどの問題点もあった。



小型MSの発展と進化



**LM312V04
ヴィクトリー
ガンダム**

フォーミュラ計画によってフォーマット化された小型MSは、以降のMS開発におけるベースとなった。サナリアはもとより、AEでも小型MSが開発。推進され、広く配備されるに至った。その前線機としてのDとつがLM312V04 ヴィクトリーガンダムである。リガ・ミリアアが推進した「V計画」において開発されたこの機体は、その後継機であるV2ガンダムとともに極めて高い性能を有した機体であった。



フォーミュラ計画

U.C.0100年代初期、MSの大型化はとどまる気配を見せず、全高30m級の第五世代MSすら誕生した。この事態を憂慮したサナリイはMSの小型化を提言し、自らも15m級の小型MSの開発に着手する。それこそがのちにFシリーズを生み出した「フォーミュラ計画」であった。

小型化と高性能を両立した 第二期MS開発計画

地球連邦軍傘下の諜情機関にあたる海軍戦略研究所「サナリイ（S.N.R.I.＝Strategic Naval Research Institute）」による第二期MS開発計画がフォーミュラ計画（以下、F計画）と呼ばれる。MCA構造、ヴェスパー、バイオ・コンピューターなどの革新的技術を導入したF91ガンダムF91をはじめ、数々の画期的MSを実用化したことで知られる。F計画の着手時期は、おおよそU.C.0100頃と考えられる。

F計画が実施された背景には、MSの大

型化とそれにとまらぬトータルコストの増大や、AE（アナハイム・エレクトロニクス）社の技術的行き詰まりがあった。グリプス戦役後に差を誇るMSの大型化は、U.C.0090年代を経てU.C.0100年代に入っても継続していた。この事態を受けたサナリイは連邦政府にMSの小型化を提言したものの、連邦軍の委託を受けたAE社が開発したRGM-109「ヘビーガン」は従来のMSの小型版にすぎないと判断された。

ヘビーガンの性能に満足しなかったサナリイは、AE社によるMS産業の独占状態を危惧する連邦政府の後押しもあり、独自の小型MS開発計画、つまりF計画を開始したのだった。

F計画の経緯

U.C.0090年代後期にはじまったMSの爆発的進化は、第三 第四世代MSといった高性能MS群を生み出した。だが、MSの高性能化は機体の大型化とコストの増大を招いており、第一次ネオ・ジオン戦争後においても、高性能化と大型化は不可分だった。そこでサナリアはMSの小型化を提言したが、AE社は技術的ブレイクスルーを達成できず、特殊任務用の小型MSを手掛けたサナリア自身が小型化と高性能を両立した第二期MSの開発を進めることとなった。

1 MSの小型化提言

U.C.0102、サナリアが連邦政府にMSの小型化を提言。直後、AE社が開発したヘビーガンは小型だが性能評価は低かった。



2 F90の開発

ヘビーガンの低性能を受けたサナリアが、独自の小型MS開発計画「F計画」に着手。小型かつ高性能なガンダムF90の開発に成功した。



3 F91の開発

U.C.0111、連邦軍の次期主力MSをめぐる競争試作において、F90の試作採用が決定。その5年後、F91が誕生した。



4 開発の継続

F91の調整が続く中、F90II、F90IIIといったF90の改良が実施された。のちにF90の各タイプからF97、F99などの新型MSも誕生している。



■F計画関連年表

年月日	事件
U.C.0102	サナリア、連邦政府にMSの小型化を提言
U.C.0107頃	サナリア、F50Dを開発
U.C.0109	AE社、ヘビーガンでロールアウト サナリア、ヘビーガンの性能に満足せずF計画に着手
U.C.0111	サナリア、F90-1号機をロールアウト、先行してオプションA.D.S.M.I.F完成 連邦軍、次期主力MS開発を決定、F90がAE社のMSA-120を下し、正式採用される F90-1号機と2号機、連邦軍システム軍(第13実験団)A.B.チームに配備
U.C.0112	第13実験団第9チーム、F90-2号機によるFタイプオプションの稼働実験を完了 F90運用に採用オプションA.V.P.完成(は発売とも)
U.C.0115	F90Sから派生したF71 G-キャンパンが完成、生産はAE社が担当
U.C.0116	F91、ロールアウト
U.C.0120	サイド4近域でテスト飛行中のF90-2号機、オールズモビルに奪取される
U.C.0121	火曜にてF90-2号機を回収(第一次オールズモビル戦役) F90-2号機、F90IIへ改修完了(U.C.0122とも)、Lタイプオプション完成
U.C.0122	F90、F91、運用テストのためラー・カイラム級戦艦(エイブラム)に投入 第二次オールズモビル戦役でF90、F91が参戦 F91、頭部コンピューター換装のため「フロンティア」に搬入される
U.C.0123 .03	コスモバビロニア連国戦争勃発、F91参戦(F90、F90Bの参戦情報あり) (「フロンティア」の密道にて、クラスターガンダムがクロスボーンバンガードと交戦後、脱出)
U.C.0128 以降	サナリア、クロスボーンバンガードにF97を提供
U.C.0136	3機のF99、木星帝国軍との戦いで喪失

Fシリーズの派生

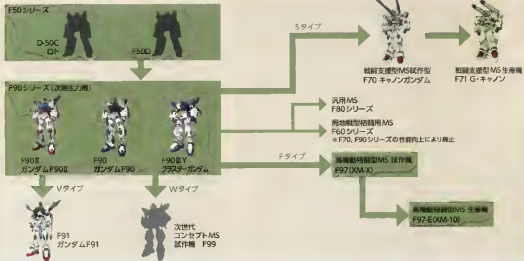
サナリアにおけるMS開発は、F90の各ミッションバック搭載型をベースに行われた例が目立つ。F90Sを原型とする戦闘支援型MSのF70シリーズ、F90Vから派生した次期主力MSの生産機F91が代表的である。F90(III)Yから発展したコア・ブロックシステム併用の試作機F97(XM-X クロスボーン・

ガンダムとして運用)、F90Wの系譜に属するミノフスキートライプ搭載の次世代コンセプトMS試作機F99レコードブレイカーも該当するといわれる。F50シリーズはF90以前の移動方式AFV型可変MS、F60シリーズは局地戦型格闘用MS、F80シリーズは汎用MSだ。F89はF90以前の18m級MSだ。



サナリアはU.C.0090年代の時点で、特殊部隊用のAFV型可変MS-D-50Cを開発。F99は、のちにM314V21 V2ガンダムに影響を与えた。

■「F計画」系MSの派生



GUNPLA Generation

ガンブラ ジェネレーション

vol.24

F91 ガンダム F91

「MSの小型化が進んだ」という設定により、18メートルほどのサイズだった機体が15メートルへと変化。その結果がガンブラへもたらした影響は多大で、F91はガンブラ全体の分岐点と化した。

「1/100がメインスケール」という転換期

ここでは設定制作については割愛するが、劇場映画「機動戦士ガンダムF91」がガンブラにもたらした効果は特筆に値する。MSの小型化が進んだせいで、それまでスタンダードスケールとされた1/144でのキット化展開が1/100メインへと転化。結果、「それ以前の1/144よりも若干大きいサイズの1/100」であるF91シリーズは、造形表現の豊かさ、ディテール密度向上の向上、多色成型による「塗装を施す必要がほばない」といういま現在におけるガンブラの礎を築くこととなったのだ。

映画公開時に発売された1/100キット（1991年3月発売・価格1,512円）は、それ以前のガンブラにおける1/144キットよりもギミックが大幅に倍増。ふくらはぎの腕部スラスター・可動などは非常に見栄えがよい。そして上位換装モデルとしてその半年後に製品化された1/60キット（1991年6月発売・価格6,480円）は、組み立て済みのインナーフレームボディにカラーラインサート成型された外装パーツを装着していく形式が採用され、「よほどのガンブラマニアでない限り塗装をしないうちが自然」という斬新なフォーマットを生み出すこととなった。

頭部はノーマルとオプションフェイスの2種が付属する等、密着感が高い1/100のF91。



1/60のF91は「パッケージデザインやキットフォームまで含め、歴代ガンブラの中でも異例中の異例たる存在だ。

ガンブラ屈指の充実度で、思わず驚愕「驚れり尽くせり」のラインナップ!

マスターグレードモデル＝MGが1995年にスタートしたことを考えると、ガンダムF91の初リリース作たる1/100 MGの発売までには、じつに11年もの年月を費やした計算になる（2006年7月発売・価格3,456円）。「性能を維持したままの小型化」がコンセプトである機体だけに、ガンブラにおいてもこれまでのMGと同程度の精密さとギミックを併せ持つキットとして仕上がった（とくに、従来のMSよりも小型となった機体の内部フ



ロポーションに大型なアレンジが加えられと共に、MGシリーズ初のポリキャップスを採用した1/100 MG。

レームの再現度がすばらしい）。また、肩の放熱フィンやビームシールド等に薄い形状の成型に達したPET素材を使用し、従来よりもシャープかつ、豊かな質感を再現。さらに、劇中の対決シーンを演出するラフレシア型の台座が付属するというアイデアも超秀逸。11年待たされただけの甲斐があった、傑作モデルがここに誕生したのだ。



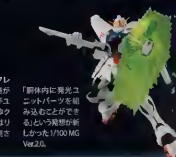
MGにはラフレシア型の台座が付属するのがユニーク。ランタックラー・ロッドはリード輪で再現されている。

大型なアクションポーズももちろん感想よいが、スッとした直立ポーズが非常に涼しい1/144 HGUC。



続いて発売されたのが1/144 ハイグレードユニバーサルセンチュリー＝HGUC（2013年12月発売・価格1,296円）。こちらは関節部のコンパクト化により、可動とプロポーションを先手に両立（関節可動の仕様や、腕部放熱フィンの差し替えにより量産機状態を再現できるアイデアはとくに絶妙）。とにかく動きアクション・ポーズがバツリと決まる。1/100 MGとはベクトルの異なる魅力に溢れた逸品となっている。

最後に紹介するのは、1/100 MGのリリースから12年後にリリースされた1/100 MG Ver.2.0（2018年5月発売・価格4,320円）。こちらはガンブラ40周年となる2020年に向けた「GUNPLA EVOLUTION PROJECT」に基づくプロダクトであり、別売の「発光ユニット（白）2灯式」を付属の台座にセットすると、胴体内部の透光パーツによって腹部ダクトやバックパックから量産機モード時に噴出される光を再現することが可能。また、腹部、脚部のダクトには多重構造を採用し密度感を演出すると共に全金属のあるエクストラフィニッシュを施したパーツを扱い、さらに、脚部スラスターは各関節部が連動して動くギミックを採用するなど、「……そこまでやるか!」と唖然とされるほどのさまざまなアイデアと技術が凝らされている。仮にMG Ver.2.0を購入したのちでも、あえて2006年発売のMGを購入し作り比べて楽しむことができる。なんと旧作も量産機体がガンダムF91なのである。



NEXT MS

次号予告

ISSUE
25

お知らせ

格段の事情により、「ガンダム・モビルスーツ・バイブル」は、しばらくの間、隔週刊での発売にさせていただきます。
次号、第24号の発売は9月3日(火)です。

ジム

RX-78 ガンダムの量産を視野に入れた機体。
基本設計の簡略化と生産ラインの見直しによって
地球連邦軍の主力量産MSとしての座を獲得した。

お買い得なく安心！発売日をメールでお知らせします！

発売日お知らせメール

<https://deagostini.jp/hiroshira/gms/>

■ 物語レポート

宇宙要塞、攻勢戦

■ MS機体解説

機体解説／武装解説

■ 関連MSラインナップ

ジムと関連機体

■ MS戦記

ジム 戦記の記録

■ MS進化誌

ジム 開発系譜図

■ メカニク・ジャーナル

試作機と量産機

姿勢制御バーニア

■ ガンダラ シェネレーション

連邦軍主力MSと
その改修機を振り返る！

第25号

9月3日(火)発売

定価：本体639円＋税

※地域によって発売日が異なる場合があります
※マガジンの内容が変更となる場合があります

ジオン公国軍のザクIIに並ぶ、地球連邦軍の量産機を検証!!

**ガンダムMSバイブル
専用マガジンケース
好評発売中!!**

キャンペーン
期間特別価格

699円

(1冊 8%込み)

待機期間：2019年9月末まで

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に本誌の10冊を収納できます。

※何冊でもご購入いただけます。※発売日変更になる可能性があります。

贈りに便利な
ステッカー付き!

01 02
03 04
05 06
07 08
09 10



**好評
発売中**

バック
ナンバー
ご案内



19 ゲルググM



20 ユニコーンガンダム
2号機 バンシー



21 ギャブラン



22 リ・ガズィ



23 ビグロ

※第1号～第18号も好評発売中。全国の書店でお買い求めください。

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説!

GUNDAM

MS Bible

Mobile
Suit

THE OFFICIAL

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

F91 / ガンダムF91



24

2019.9.3 9.10 合併号



ガンダムF91

GUNDAM F91

F91

Total Height : 15.2m
Weight : 7.8t
Total Weight : 19.9t
Material : Gundarium Alloy Ceramic
Composite Material
Generator Output : 4,250kW
Thrusters Total Propulsion : 88,400kg



第二期MSとして数々の最新鋭技術を投入された、サナリィ製ガンダム



DeAGOSTINI

